



## 発行所

東京九嶺宮原同窓会事務局

〒263-0043 千葉市稲毛区小仲台7-21-26-508

末永俊幸方

電話 090-6943-8065

印刷：泰成印刷株式会社

電話 03-3631-8141

# 人間は平和に 生きられるか



東京九嶺宮原同窓会

会長 大崎 康博

(九嶺24回)

二足歩行を始めた人間が誕生したのは今から700万年前、200万年前から火を使い、道具を作り、言葉を身につけ始めたといわれております。以降人間は、生活に必要な道具を作り生活を便利にする方法について長足に進歩し、生活の質は画期的に向上し、生活は豊かになりました。

人間は、知能の発達により、生活に必要な「物」を獲得するためには自然界から自分で「物」を集めるより、既に他人が獲得している「物」を横取りする方が能率がよく、はるかに「楽」であると考えるにいたりました。ここから人間同士の紛争、戦争が始まります。「戦争」の起源は、人間が類人猿から分かれ、智慧を持ち始めたときからであります。

そして、その後は、他人の「物」を取り上げるために戦争を繰り返してきました。そのために智慧の限りを尽くして戦争のための道具すなわち「武器」を改良し、発明し、遂には核兵器に到達しました。人類は、自分の生活の豊かさを求め、或いは、(他人の生活を考えることなく)自分の豊かな生活だけを守ろうとする限り、戦争を避ける事は出来ません。しかし、核兵器の発明

の結果、「物」を求めての戦争が人類の破滅を齎す恐れを生じるに至りました。私達はなんとしても戦争は避けなければなりません。私たちは、世界全体で戦争を起こさせない仕組み、制度(国連、さらに更に強化され制度)を創らなければなりません。しかし、唯、何がなんでも戦争を起こさないことにした場合、一方では現在の富の偏在をそのまま放置し、豊かな人々の生活は守られるが、日々の食糧にすら事欠き、寝る家もない人々に我慢を強いることになります。そのような状態が続く筈がありません。そのような状態として、これ等困窮している人々の生活水準を豊かな生活をしている人々の水準まで引き上げることかもしれません。そのためには、豊かな人々の協力が必要となりますが、いま直ぐ、それを期待することは困難でしょう。また、それを実現する時間的余裕もありません。一方、別の観点から見て、地球上の人口は既に70億人に達したといわれており、人類全体の生活を、今の豊かな人々の生活水準に引き上げることは、地球上の現存する資源からみて、また、地球温暖化現象について論じられておるとおり、人間が生活するうえで不

可欠の水、空気についてすら地球上の正常な再生サイクルが危ぶまれている現状から見ても無理であります。

今回の東日本の大災害に対する世界中から援助された事実からも、人間が本質的に他人との協調性、助け合いの精神、協力、扶助しあう「善性」を持っていることを否定しませんが、この協調性、助け合いの精神は、理解し合い、仲間意識、同族意識を共有できる範囲においてであると思われまます。地球上の人類は、協調し、助けあうためには、人類全体がこの意識を持ち合い、協力していかなければならないとの意識の芽生えが必要であると考えます。またその意識の共有が実現できて初めて可能であります。その兆候は現在次第に芽生えつつあると思われまます。現在の世界は、一国の経済的破綻が同時に世界全体の経済的危機を招きかねず、交通機関の発達、通信技術の進歩は、一地方の社会現象(生活様式から、ファッションに至るまで)が世界中に直ちに拡大する時代となり、世界中の人々が同一の社会意識を共有し、人類全体が所謂「人間同士」であるという気持の方向に動き始めております。ここに世界中の人々に仲間意識が生まれ、人類全体の協調性、助け合いの時代になってきつつあると思ひます。世界から戦争をなくし、人類全体が平和に暮らせるかどうかは、人類全体が人間としての仲間意識、共同体であることの自覚を育てると同時に、その自覚に支えられた戦争をさせない強固な世界的規模の組織を作ることによって思ひます。